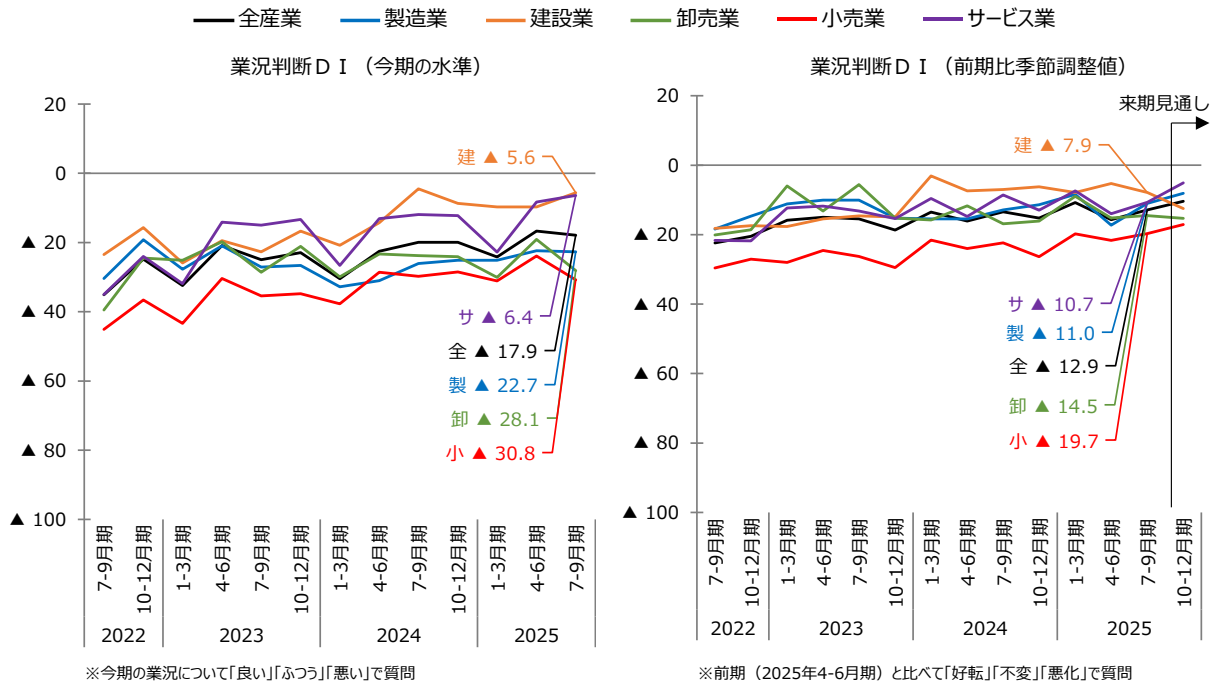


# 第181回 中小企業景況調査（2025年7-9月期） 中部



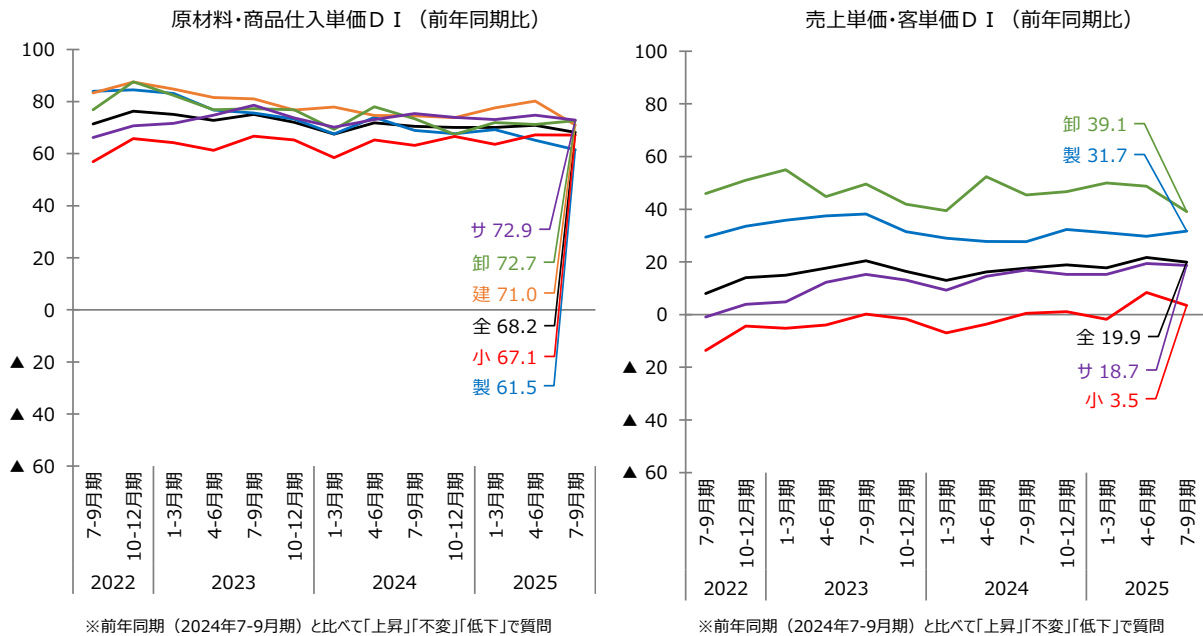
## 1. 業況感

中部地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年4-6月期）より1.2ポイント減の▲17.9と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業、サービス業で上昇し、卸売業、小売業、製造業で低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.7ポイント減の68.2と3期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、建設業、製造業、サービス業、小売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.8ポイント減の19.9と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、卸売業、小売業、サービス業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2025年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,826 有効回答企業数：17,956 有効回答率：95.4% うち、中部：2,285企業

※本資料の集計対象の都道府県は、富山県、石川県、岐阜県、愛知県、三重県です。

第181回 中小企業景況調査（2025年7-9月期） 中部

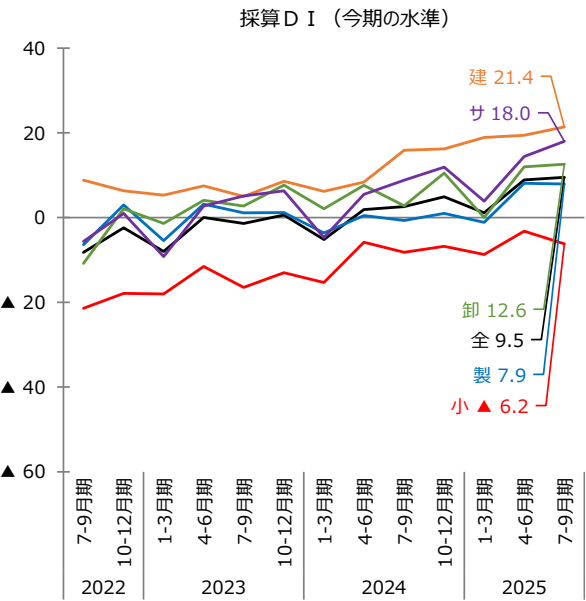


3. 採算

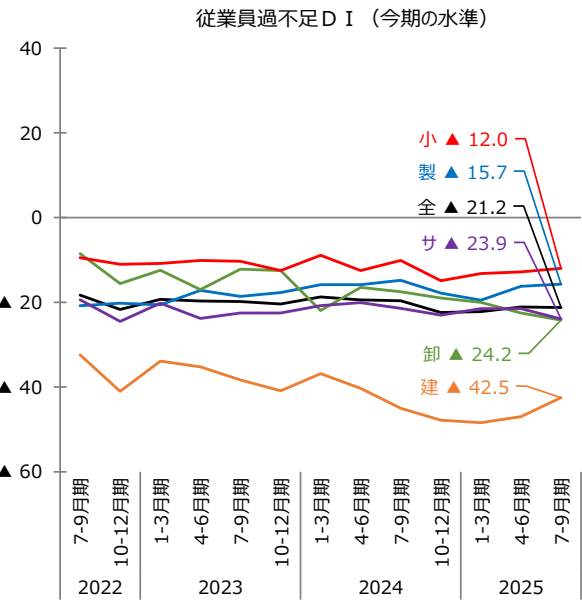
採算DIは、全産業で前期より0.6ポイント増の9.5と2期連続してやや上昇した。産業別にみると、サービス業、建設業、卸売業で上昇し、小売業、製造業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.1ポイント減の▲21.2と3期ぶりにやや低下した。産業別にみると、建設業、小売業、製造業で上昇し、サービス業、卸売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 中部の中小企業の声

| 業況判断の背景 |                                                                                                       | 業種    |                    |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|--------------------|
| 現状      | 木造住宅の新築が減っているため、木材の売上げが低迷している。                                                                        | 製造業   | 一般製材業              |
|         | 能登方面での新築・修繕工事が今春より大幅に増えた。また物件数・工事量の増加にあわせて元請の受注金額も割と強気な金額を提示している様である。これまでの物価上昇・人員不足もあり大幅な利益増に繋がっている。  | 建設業   | 板金工事業              |
|         | 物価高、社会保障などの税収増による経済不安が多く、1月以降の消費控えが顕著。消費サイクルの悪化や低価格商品への移行などの消費変化が収まらず、生活への不安から節約志向品、サプリメントには大きく影響。    | 卸売業   | 化粧品卸売業             |
|         | コーヒー豆の仕入れ価格は上昇基調にあるものの、販売価格に価格転嫁できており問題ない。地域の小売店と連携し、店舗での物販を強化することで、お店のファンづくりを推進しており、目標を超える業況にある。     | 小売業   | 食料品スーパーマーケット       |
|         | 依頼減少の背景には、料金やAI・スマホなどでの自前撮影、広告不況に加え担当者の定年や社長の代わりといった取引先の事情も影響していると考えられる。                              | サービス業 | 商業写真業              |
| 見通し     | 弊社の強みである航空宇宙産業は、地政学的な背景もあり、今後10年近くは高水準で成長が見込まれる。その先の製造業においてはAIの発展により競争力のない時代に入ると想定され、成長産業に注力すべきと考える。  | 製造業   | 金属工作機械製造業          |
|         | 受注高、完成高ともに維持しているが、働き方改革による労働時間削減により、限られたスタッフで業務をこなさなければ厳しい状況が続いており、業務の平準化をすべく対策を考えるべきである。             | 建設業   | 一般電気工事業            |
|         | インバウンド需要による業況の好転が多少あるものの今後の継続的な需要が不明。国内需要とインバウンド需要が混在しているターゲットの増加による製品数の増加。金などを使った一部製品単価の上昇幅の先行きが不透明。 | 卸売業   | 陶磁器・ガラス器卸売業        |
|         | 商品単価の急上昇でお客様の購買力が低下して困っている。毎年上昇する人件費にも困っている。物が売れているのではなく、単価上昇による売り上げ安定である。                            | 小売業   | その他の各種商品小売業        |
|         | たまたまマスコミで取り上げてもらい、それが来客数の増加につながっている。しかし、この状況がいつまで続くか、一過性で終わるか、そのまま続いてくれるか分からない。                       | サービス業 | 食堂、レストラン（専門料理店を除く） |

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)